

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402010		
法人名	有限会社 セルフサポート有明		
事業所名	グループホーム暖A棟		
所在地	雲仙市瑞穂町古部乙771-8		
自己評価作成日	令和2年1月12日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和2年2月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

抱えない介護の実践として、介護技術の研修に積極的に参加し、既存職員が長く働けるよう、職場環境を整えている。職員間のコミュニケーションを取るためにも、「虐待防止の芽チェックリスト」を活用し、個人面談で改善方法を探り、カンファレンスで報告している。広報としては、SNSの活用、フェイスブックに投稿、玄関に日常生活の画像の掲示等、工夫を凝らしている。外出やドライブなどにお誘いし、気分転換を図っている。リハビリの一環として、リビングにプーリーを設置し、肩、腕の筋力アップを図り、利用者様が自発的にリハビリに励んでいる。終末期の利用者様にも、食べる楽しみを重要視し、嚥下し易いもの、また、好物を提供している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、介護上の課題に対して真摯に向き合い、スピード感を持って解決している。管理者は、職員の現場の声に耳を傾け、個人面談を実施し、職員の不安をなくす対策を取っている。勤務年数の浅い職員には病院受診に同行することで、利用者との外出の不安を軽減する工夫や個別の外出支援の充実を図った事例、利用者職員両者の負担軽減のため福祉用具を導入した事例がある。運営推進会議では、ヒヤリハット事例を全て公開しており、透明性を確保する姿勢が窺える。今年度から介護記録ソフトを導入し、記録の負担軽減や更なる情報共有に繋がっている。職員は、法人の「暖カレッジ」で研鑽を積み、介護理念である「利用者が快適な生活が送れるよう本人の目線に合わせた」支援の実現のため全員で取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員と共に作り上げた理念であり、毎朝の朝礼時に全員で唱和し、実践に繋がられるよう、意識している。	職員全員で作成した介護理念を事業所内に掲示し毎朝唱和しており、常に念頭に置き支援している。新人職員には本部のオリエンテーションや教育担当者が説明し、周知を図っている。職員は利用者の目線に合わせ支援することで、本人が快適な生活を送れるよう理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、自治会活動にも参加している。町内の清掃活動など。消防署員の立ち合いの下、消防訓練、救命訓練を行った。	自治会に加入し、利用者と一緒に回覧板を届けている。毎年、神社の祭りや相撲大会に協賛しており、職員は町内の清掃活動に参加している。地域文化祭には利用者が作品を出品している。また、中学生の福祉体験学習の受入れや敬老会にはボランティアの訪問等交流の機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、自治会長、老人会長、雲仙市包括等、報告、話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で行っている事、情報を提供している。職員へは、申し送り時や、ミーティング時に報告し、情報共有している。また、SNSの活用で、Facebookやグループラインで共有している。	年6回規定のメンバーで実施し、発言しやすいよう日常風景画像を見ながら進行する等工夫している。利用者状況の他、避難訓練や研修内容、1年間のヒヤリハット分析結果の報告を行っており、会議の透明性が議事録から確認できる。参加メンバーの意見や助言を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	瑞穂町ケア会議に出席し、情報を共有し、ケアのみならず、権利擁護事業の情報等を提供している。	不明な点や利用者に関する相談事等、行政担当課に尋ねており、事故報告の際には窓口に出向いている。定期的に担当職員が利用者の面会に来ている。行政、福祉事業所、民生委員等で構成する瑞穂町ケア会議に参加しており、事例発表や情報交換を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロ推進員3人。及び、日々、拘束にならないよう安全に配慮しケアを行っている。また、「虐待の芽チェックリスト」を活用し、カンファレンスで話し合っている。	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、適正化委員会を実施し、運営推進会議にて報告している。年2回の内部研修や「虐待の芽チェックリスト」の結果を基にしたカンファレンスで、職員は拘束への見解を確認し合っている。言葉の拘束については、管理者が個別に指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	理念にそぐわない人は、その都度、対処し、指導に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加、運営会議等により、学ぶ機会を持っている。支援事業の法テラスや社協とも、毎月報告をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時も、説明会を設け、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営会議等の参加、意見箱の設置等、設けている。	利用者の外出や衣服の購入等の要望を受け支援している。家族とは直接話し、意向を把握している他、利用者が以前に比べてリビングで楽しく寛いでいることや口腔体操により食事を美味しく食べられることに感謝の言葉を得ている。消費税のアップに伴って介護報酬改定について家族会を開催し、代表が説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時に話し合いの場を設けている。	職員から外出や職員間のコミュニケーションに関する意見や要望を受けて、管理者は解決策を講じている。本部から職員へ意向調査があり、異動等の希望を伝える仕組みがある。介護用具や介護ソフトの導入により職員の負担軽減に取り組んでいる。有給休暇取得を推奨し、労働環境にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務士とも話し合い、経営の中で出来る事は行っている。また、チーフミーティング時に、相談、報告をし、現場へ持ち帰っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトを調整し、研修会の参加、また、職場へ持ち帰り、報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加等により、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの段階から、ゆっくりと話を聞き、安心して生活していただけるよう信頼関係を築く努力をしている。見学时当時も話す機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の前サービス事業者担当者との聞き取り、見学当時も話す機会を設け、アセスメント段階より、ゆっくりと話す機会を設け、安心して生活できる信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	無理にうちへの入所を勧めず、特養や小規模等、ニーズに合った紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のADLやIDALに沿った支援を行っており、お盆拭きや、新聞紙折り、洗濯物たたみ等、自信に繋がる支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅や外出の機会を作って、し易い状態を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体調を整えたり、自宅で使用されていた物等、持ってきて頂き、使用している。面会時には、居室でゆっくりと話しが出来る場を設けたり、墓参りにお連れしたり、電話の取次ぎ等行っている。	アセスメント時に、行きつけの理美容室等を聞き取り支援に繋げている。家族旅行に行く利用者や正月に外泊外出する利用者がある。毎月墓参りを希望する人には職員が思いに沿った支援を行っている。得意な裁縫を続けていたり、化粧している利用者もいて、事業所が馴染みの習慣を継続する支援を行っていることが見てとれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓での席を決めたり、イベントに参加したり、出来る事を通して、居場所作りを行っている。レクリエーションは、利用者様が他の方に自発的に声を掛けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている時は、面会へ行き、状態が良ければ、入居可能であることを家族、病院関係者へ伝えている。他界された時は、葬儀等へ参列させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を参考に、本人の様子を見ながら、把握できるよう、心掛けている。プランに反映させている。	職員は、入浴時に利用者と会話することが多い。把握した内容は記録し、会議で職員間で共有している。発語困難な利用者には、カードを活用している。生活歴等の基本情報は、新たな事項を加えて、定期的に更新している。その日着る服を本人が自ら選択することを尊重しており、利用者の自己決定を重視した支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用時、情報を交換している。ファイルに綴じ、いつでも見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックや表情、状態、行動等を把握し、職員が申し送り等で情報の共有に努めている。今年から、カナミック介護記録ソフトの導入で、ネットを通して、いつでも見られるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づいて、作成した個別機能訓練がある。毎月のモニタリングは、担当職員が介護記録から評価を行っている。	本人・家族の意見・要望を取り入れ、担当する職員のモニタリングを基にカンファレンスを実施し、プランを作成している。理学療法士等と連携し、生活機能向上プログラムを作成するケースもある。介護記録ソフトの導入は、実践状況の把握や毎月のモニタリングに活かされており、現状に合ったプラン作成と実践に繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンス、必要に応じて、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、買い物に遠出したり、利用者の要望があれば、希望に沿うようにしている。本を買いに行ったり、眼鏡を新調したり等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理美容室への送迎や、買い物、季節によって、ドライブや花見等、支援を行っている。町内の文化祭に出展し、見学に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診や、通院受診がある月1回の歯科医の往診や月に2、3回の歯科衛生士の口腔ケアが出来ている。又、他に希望される病院受診も行っている。	本人と家族の意向を尊重し、かかりつけ医を継続している。職員が受診支援を行い、家族に受診内容を伝えている。看護師の資格を持つ職員と訪問看護ステーションとの連携により、利用者の体調管理を行っている。職員は看護記録にて情報を共有している。緊急時は、対応手順に従って適切な医療を受けることができるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師との連携も取れている。今年から、自社の訪問看護が月に2回、健康チェックがあり、状態を把握、情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や連携室看護師と連絡を取り、情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者に体調の変化が見られた時は、主治医から家族へ説明していただき、本人、家族の意向に沿って、ホームで出来る事を伝え、支援している。	利用開始時に看取りの対応指針を本人と家族に説明しており、リビングウィル指示書にて希望を聞き取っている。状態の変化に応じて家族と主治医と話し合いを重ね意向を確認しており、看取り支援に取り組んでいる。事業所では看取り後にカンファレンスや職員アンケートを実施し、今後の支援に向けて職員のメンタルケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、救急対応の訓練を受けている。今年は、ホームでほぼ全員参加した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	ほぼ毎月、避難訓練を実施し、全員が参加できるよう、リーダーを順番に変えている。スプリンクラー等の防災設備の設置がある。非常時の備蓄の整備等行っている。	今年度は5回、避難訓練を行っており、年1回消防署立会いの下、総合訓練を実施している。台風時に長時間停電となり、電気が使用できない時の利用者対応や医療機関等との連携、備蓄品の整備等、再確認を行っている。ただし、今年度は自然災害の訓練が未実施である。また、非常口前に植木鉢等が置いてある。	利用者の命を守るため、想定される自然災害訓練の実施に期待したい。また避難通路を遮らないよう、安全に避難できるよう装飾物等の配置に検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快な気持ちにならないよう対応している。	職員は、守秘義務の誓約書を入社時に提出している。職員には他の利用者の前では、プライベートなことを尋ねないよう指導を行っている。居室のポータブルトイレには布を掛け、パッド類も目につかないよう収納しており、羞恥心に配慮している。ただし、トイレのアコーディオンカーテンが開いたままの状態を利用者が入っている。	トイレの使用時は、利用者の羞恥心に配慮した支援が求められる。本人のプライバシー確保を重視した対策と支援方法について検討するよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選びやすいように選択肢を出している。また、一度は、声掛けを必ず行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で休んだり、TVやDVDを見たり、リビングでパズルをしたり、思い思いに過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夜は、寝間着に更衣して頂き、外出時は、帽子やスカーフ等、好きなコーディネートを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備等、職員と一緒に行う事は難しいが、お盆拭きや、おやつ時のお茶等は、配ってもらったり、下膳して頂いている。	主食と汁物以外の副菜は法人内の配食サービスを利用している。ソフト食等にも対応している。正月は事業所でおせちを作っている他、誕生日には、ケーキとプレゼントで職員と共に祝っており、家庭の温かみを大切にしていることが窺える。公園で弁当を食べ楽しい時間を過ごすこともあり、食事が楽しいものとなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量や副菜の量をその人に合わせ、咀嚼、嚥下状態を見ながら、形態を変え、提供、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、歯磨きをして貰い、困難な方は、スポンジケア等、口腔ケアを支援し、清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じて、声掛け、誘導を行い、失禁で不快にならないように支援している。	利用者の排泄のリズムを把握し、早めに誘導している。失敗した場合は他の人に気付かれないよう声掛けを行っている。利用者毎にパッドの種類を検討しており、一律な対応にならないよう配慮が窺える。ポータブルトイレを使用した際は、その都度洗浄し、臭気が籠らないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日ごろから、牛乳やヨーグルト、栄養補助食品を利用している。また、運動不足にならないよう、体操やプーリー(腕肩・筋力アップ)の使用を働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調に合わせ、入浴、清拭を行い、全身の観察を行っている。皮膚トラブルを防ぎ、保湿を心掛けている。	毎日湯を沸かしており、利用者は週2、3回入浴している。浴室と脱衣所共にエアコンがあり、ヒートショックを予防している。自分用のシャンプーを使っている利用者もいる。希望によって足浴や手浴も行っている他、入浴後は、保湿剤により乾燥を防いでいる。現在、全員が浴槽に浸かることができるよう機械浴を導入予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由な時間に休むことができるよう、居室の環境を整え、個人の希望に合わせて、保水準備、加湿器や湯たんぽも使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調に合わせて、主治医、看護師に相談し、薬の調整を行っている。薬局との連携も取れており、チェック体制を強化している。又、服薬状態を見て、主治医の指導の下、粉碎等、薬局に協力して貰っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならないよう、個々の役割でお手伝いされている(ゴミ箱作り、お盆拭き、モップ掛け)。レクリエーションは、各自で取り出しやすい場所を工夫して楽しく参加できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、2,3人にドライブに出かけたり、HP受診を利用し、買い物支援をしている。墓参りやお見舞いなど、個々の要求にも対応できるよう取り組んでいる。	職員は、薬の支払いや回覧板を回す際に利用者と共に掛け、外気に触れる機会を設けている。初詣や買い物にも出掛けており、理美容院の帰りに菓子を購入する利用者もいる。外出支援を行う職員が限られていたため、人員体制を見直しており、利用者にとって外出の機会が増え、日常の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム側がきちんと把握できる額を了承してもらい、管理できる人には、所持して貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の仲介を行っている。電話で中々会話が出来ない時は、お相手と利用者との仲介も行っている。字を書ける方が少なく、手紙は、中々書こうとされない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、温度には、気を配り、(暑すぎず、寒すぎず)照明の電気も暗すぎず考えながら点けている。	リビングは明るく開放的な空間である。海や田畑、庭の草木から季節の移り変わりを感じることができる。利用者はテーブルを囲みゲームを楽しんだり、運動器具でリハビリに励んだり、洗濯物畳みを手伝う等自由に過ごしている。清掃や手すり等の消毒は職員が毎日行う他、空気清浄機を利用して衛生的で快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、本人様がいたい所に誘導し、自室へも自由に行き来できるようにしている。ただ、危険行動がある方に関しては、職員の見守りの下、行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人さんが長く使ったものを持ち込みして貰おうと思っているが、持ち込み少ない。	持ち込み品に制限はなく、家族写真や調度品、好きな球団の応援グッズや化粧水等、愛着のあるものを自由に飾っており、家族の遺影に毎日水を供える利用者もいる。ベッドの足元に転倒衝撃緩和マットを設置している居室もある。毎日職員が清掃と換気、定期的にシーツ交換を行っており、快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前のネームプレートの設置。トイレ、浴室の案内板の設置を行っている。整理整頓を心掛けている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402010		
法人名	有限会社 セルフサポート有明		
事業所名	グループホーム暖B棟		
所在地	雲仙市瑞穂町古部乙771-8		
自己評価作成日	令和2年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅診療医と綿密な連携体制を取っており、入居者の急な不調にも迅速に対応し、看取りを行う体制も整っている。訪問看護リハビリステーション暖が、今年度より開所し、訪看の健康チェックを月2回行っており、利用者様の状態把握に努めている。特変時は、すぐに対応が出来るようにしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で意見交換、理念の唱和を実施。実践に繋げるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加。清掃活動も出来るだけ参加している。運営会議、敬老会も地域代表の方に出席していただき、グループホームの現状を知ってもらうようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議、地域ケア会議に参加し事例をもとにケアの参考にすることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催。報告し、意見をもらい参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き情報を流したり、生活保護の方の福祉事務所との連絡の仲介をしてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成しどのようなものが拘束にあたるか配慮しケアを行っている。「虐待の芽チェックリスト」の活用。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したりして防止に努めている。職員間での注意しあえるような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に必要があるかどうか見極めを行い、必要になった場合広域圏組合へ相談を行っている。(現在は利用している方はいない)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせを行い改定時は説明会を設けている。不明な点などはいつでも聞いてほしいこと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は記録に残し情報の共有を行い、対応できるようにしている。苦情窓口を契約書に記載し、意見箱の設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で聞きとりを行っている。月1回のカンファレンス時に話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みを考慮したシフト作りを行い勤務が長くならないようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人にあった研修会への参加を促している。その後の報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会へ参加し、相談したりケアの対応方法を参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れて頂く為、職員が間に入り他者と触れあう場を設ける。 本人の思いにきちんと向きあう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	きちんと向きあい、家族の思いを聞き一緒に対応を話しあう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況によっては、他施設への紹介又は病院への転院。看とりの段階では訪問介護の利用などの手助け行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の興味あること、本人が昔していたことを聞きとり、職員は教わりながら一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば家族へ相談し付き添ってもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会場(和室)や居室の方へお連れし、ゆっくりと談話が出来るような雰囲気作りを心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりにあったものを提供し、孤立しないよう職員から付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時であれば、状態や顔を見に行き、家族からの聞きとりも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添い、会話の中で聞き出すようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族への聞きとり行い、情報は記録し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のモニタリング、又は日々の記録の中で把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から要望を聞き、現状を照らし合わせながら作成している。カンファレンス実施。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録(パソコン)チェックしている。 気づきは特記へ記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居に対して不安あれば家族の面会通して早く慣れて頂くよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な物を買に行ったりしている。 町内の行事へ家族と一緒に参加されている方もいらっしゃる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望確認している。 家族の付き添いにて受診の場合は、文書作成し情報交換行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきを報告し指示を受けている。 早目な対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状態を聞いたり面会しに行き、ホームでの対応可能ならば早目に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ドクターが判断した時点で家族と相談し、施設側の方針と家族の希望を照らし合わせて体制を作っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。 対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	1ヶ月に1回火災訓練を行っている。毎回リーダーを変えて行い、きちんと省りみて次の訓練へ繋げている。年に1回消防署立ちあいの元、訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、その方を尊重し、不安なく理解できるように行っている。 こちらの一方的な考えで対応しないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思い、希望を聞き対応している。 生活機能向上プログラムの活用をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全を配慮し支援している。利用者の体調、希望にそって自室で休みたい方にはきちんと対応行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、洗面所でクシ等で整髪できるように支援している。夜はきちんと寝間着に更衣していただき朝は、服を選んでもらえるような支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をとりコミュニケーションをとっている。その方の希望、症状に対応して提供している。お盆拭きは当番制にて対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯、汁もの、おかずはその人にあった量、大きさにて提供している。お茶を好まない方には、汁ものの量で調整している。食事摂取量の記録行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェックを用いて食後確認している。 義歯外して磨けてない方には声かけ、見守り行っている。出来ない方はガーゼにて拭き取り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来るよう、定期的に声かけ促し、支援を行っている。オムツの方も定時で交換している。排泄チェック表を用いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の状態に応じて歩行運動や体操を行っている。ヤクルト、牛乳などの乳製品やバナナ、さとう湯の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に浴い、ゆったりとした時間に入浴出来るように支援している。入浴出来ない方は陰部洗浄、足浴、手浴など行っている。清拭も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自室で休まれたりされる方、夜間、常夜灯をつける方、暗い方がいい方それぞれ対応支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は、名前、日付、時間帯チェックし支援している。状態観察も行っている。必要事項は特記へ記入し申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日課になるよう洗たくたたみ、お盆拭きなど支援している。カラオケも楽しくされ気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力にて外出されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方もいるが必要な物は家族からの預かり金にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをご家族とされている利用者がおられ、職員がポストへの投函を支援している。贈り物が届いたときは、電話をかけ職員が間に入り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物や目につく所に花を飾り、季節感を取り入れている。居心地良く過ごせるような空間づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の希望、思いにそい食卓やソファの席を配慮している。近くでお話出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた物を持ってきて頂いている。 写真なども飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室の戸には表札を設置し、わかるようにしている。トイレへの案内↑(矢印)で表したり、流し方も目印をつけて行っている。危険がないよう環境づくりを心掛けている。		